

河井家の歴史

- ・新しい南郷地域生涯学習センターの建つこの地は、旧河井邸の土地であった。河井家は12代続く旧家であるが、後に東京に住居を移した関係もあって、土地、建物、所蔵品等の一切を掛川市に寄付した。
- ・河井家は寛政年間から掛川宿の塩町（横町）に居を構え、三河屋徳兵衛を祖とし領主の御用達をしていた。度々の火災にあったため、文政4年掛川宿の郊外、ここ上張村の地に住居を移した。
- ・その後は上張村の庄屋を務めるなどしたが、8代弥八郎の時、当時の掛川領の領民が地震や水害、疫病で苦しんでいるのを見て、領主に直訴して地租減免に尽くした。また幕末の外国船の渡来に際しては、掛川藩40数カ村の農民指導隊の隊長として、沖を通る外国船の見張りをした。
- ・9代重蔵は、上張村の戸長、村議、郡会議員などを務め、その後県議を2期、明治35年衆議院議員となり3回当選した。この間、地元南郷尋常小学校の建設や掛川銀行の創設に奔走した。また東海道線敷設の際には、近隣町村の有志の中心となって誘致を働きかけ、熱心に請願した。その結果、当初の計画が変更されて掛川に鉄道が通ることになった活動の立役者としても知られている。
- ・10代弥八は、皇后付の侍従次長となり、側近として天皇皇后に仕えた。その後貴族院に勅選され、また戦後は、参議院議員を2期、最後は議長職を務めた。議員の傍ら地元にあっては、大日本報徳社の副社長、社長を合わせて22年余を務め、戦前戦後の食糧不足が懸念されるなか、甘藷や麦作の増産を各県や国に働きかけた。特に甘藷については、報徳社の専門講師を全国に派遣して栽培方法を普及させた。増産が可能となり国民の命を繋ぐ大きな役割を果たした。
- ・小村の上張村にあって、2代続けて国政に参与する人物が輩出した事は、村にとっても誇るべき名誉なことであった。小学校建設・鉄道の掛川への誘致・御料林の払下げ・甘藷の増産・小笠山の治山治水等に尽くした二人の功績は大きく、地元にとってもその恩恵は計り知れない。